

## 秋の講演会



平成17年10月30日、佐藤正幸先生（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）をお迎えして秋の講演会が行われました。また、10月20日に全国を襲った台風23号で大きな被害を受けた兵庫県立豊岡聾学校へ義援金をお送りしようと、急遽義援金を募ったところ、多くの参加者にご協力をいただきました。寄せられた義援金は、当日参加された兵庫県立豊岡聾学校の先生にお渡しし、学校の復旧に役立てていただくことになりました。

## 参加者の感想

秋の講演会に参加された方に感想を寄せいただきましたので、ご紹介いたします。

子ども時代の懐かしい写真も交えて当時の聾学校の様子を色々聞かせていただきました。「リヤカーメソッド」という言葉に当時の穏やかな雰囲気を感じられました。

非常に興味を持ったのがタイムラグの問題。人間の時間分解能が2～5ミリ秒と聞いたときに、人間はなかなかやるモンだ！と感心した。最近、インターネットや携帯電話でTV会議が出来るようになってきている。昨年度の全日聾研でTV会議システムを使い本校から分科会に参加した折、自分の発言が数秒遅れて返ってくるので、発言がやりにくかった経験がある。これはネットワークの太さの問題が大きい、いくら太い回線を使ってもPCの処理能力でどうしても遅延が起こる。補聴器はその小さなところでデジタル処理をしているのだから、遅延が起こるのは当然だろう。（でも、このお話を聞くまでは考えもしていなかった。）デジタル補聴器を着けたとき、「自分の声が物足りない」と感じる人の原因の一つが、このタイムラグであるという話なるほどと思い、2ミリ秒以上の補聴器が結構あると言うのにもまだまだデジタル補聴器は開発途上なんだなと感じた。半導体の性能の進歩に期待したいと思う。（大阪府立堺聾学校 前田直広）



補聴器支援、聴力検査等を熱心に研究しておられるのを聞いたことがあるので、講演を聴きたくて参加させていただきました。佐藤先生と会うのは数年ぶりですが、気さくなお方で、よく話しかけてくれます。

教育相談を担当しておられるのですが、補聴器装用の判定、補聴器の活用支援等やっておられる聾学校や耳鼻科医と連携して、又は補聴器や聴覚支援機器等の最新情報を保護者たちに伝えられるように工夫しておられるようですし、たいへんな役割を持っているなあと感じました。

生活面では、私自身はろう者ですが、難聴である佐藤先生とは違いがあるなど感じられました。佐藤先生の講演を聴いて参考になるし、いい勉強になりました。ありがとうございました。  
(和歌山県立和歌山ろう学校 宮崎江美)

実際に補聴器を装用されていて、かつ聴覚障害児・者への支援をされている方のお話がきけるといのは、とても実際的でわかりやすく勉強になりました。

聴覚活用に関する話の中で「コミュニケーションは手話で、音楽を楽しむ・情緒を感じるは聴覚で」というライフスタイルの可能性の追求、この音が好き・この音が楽しいという気持ち育てる、という話があったと思います。私自身「音」の持つ可能性の認識がとても狭かったことを実感しました。これからは音やリズムを感じる・楽しむ・表現するという体験ももっと大切にしたいと思いました。

講演全体を通して、補聴機器や福祉に関する情報を把握することだけでなく、音に関するセンスを磨くこと、発達に応じた援助のあり方について考えることも大切だと思いました。  
(大阪府立生野聾学校 鶴岡真紀子)

## ～ 兵庫県立豊岡聾学校からの報告～

豊岡聾学校で通級・聴覚管理を担当している長谷川と申します。昨年10月20日の台風水害に際しまして、全国各地の聾学校の先生方、子どもたち、保護者の方々、病院や補聴器販売店、機関、研究会、など本当に多くの方々から温かいご支援と励ましをいただきました。近畿の端にある小さな聾学校ですが、これほど多くの方に手と目と真心を注いでいただいたことに心より感謝申し上げます。

校舎や寄宿舎などが床上浸水したあときから約5か月が経ちました。のべ600名を超えるボランティアの方々の手によって、泥の校舎は見事に清拭され、校舎・体育館の床や壁の張替え・塗り替え工事は1月に終了しました(寄宿舎は2月中)。外壁塗装工事が終了したこともあって、本当に生まれ変わったようです。

3学期に入り、それまで寄宿舎の部屋を間借りしていた幼稚部がリニューアルした元の教室に帰ってきました。1階に元気な子どもたちの声がこだますようになりました。聴力測定室なども床、壁が張り替えられ、関連機器を更新しながら業務を再開し、幼児聴検システムもまもなく搬入される運びです。被災した子どもたち(通級・教育相談の子どもも含め)や職員、ろうあ協会の方の中には、まだ工事に取りかかれない家もあるようですが、少しずつ元の生活にもどりつつあります。

国や県からの視察も終了し、新生豊岡聾学校として新年度をスタートできそうです。自然災害を初め、学校を脅かす様々な事件が連日のように報道されていますが、小さな学校を支えているのは大きなネットワークであると改めて感じています。みなさんからのエールに応えられるよう、そして、より一層地域に信頼されるよう、学校づくりに励んでいきたいと思っております。その後の復旧の状況については本校のホームページにも紹介しています。ぜひご覧ください。<http://www.hyogo-c.ed.jp/~toyooka-ro/>



上段：  
浸水時の校舎内外



下段：  
(左) 廃棄物品が処理されつつある運動場 + 新塗装校舎  
(右) リニューアルした幼稚部教室前

## 冬の学習会



1月15日(土)近畿教育オーディオロジー研究協議会の冬の学習会が、奈良市男女共同参画センター「あすなら」にて開催されました。講師として、秋田県立リハビリテーション精神医療センターの中澤操先生をお招きし、午前は「秋田県における新生児聴覚スクリーニングの取り組みについて」、午後は「ろう・難聴教育について今思うこと～耳鼻科医の立場から～」の2つのテーマでご講演をいただきました。

「きこえないことは可哀相なことではありませんが、環境の貧弱さによって二次的に可哀相なことにはなりません、秋田県での取り組みの根幹はここにあります。」ということばから始まった講演は、中澤先生の先駆的な活動経験と知見に裏打ちされたことばにより、新生児聴覚スクリーニングによる聴覚障害の早期発見はその後の社会体制により生かされるものであり、ただ早く見つけるためでないことを強く聴衆に訴えかけました。午後は、人のさまざまな学習の過程を大脳生理学・神経学のレベルで解説されるとともに、言語学習の過程・言語習得の適期や言語獲得の重要性を力説されました。講演の中では、私たちが小さなころ体験したことや身近な事例が随所に登場し、参加者からは「とても分かりやすかった」、「知的な好奇心を刺激された」、「日頃現場で体感していることを言語化してもらいすっきりした」等の感想が出ていました。

冬の学習会の講演後「当日参加できなかった会員にもぜひ伝えたい」との声が事務局・代表委員からあがりました。例年冬の学習会の講演冊子は作成していませんが、急遽冊子の作成作業を引き受けてくれた事務局有志、急な冊子作成の申し出を快諾していただいた中澤先生のご厚意により冊子を発行するはこびになりました。どうぞみなさんお楽しみに。





## 来年度の予定

### 第6回講演会・講習会

平成17年 8月18日(木)・19日(金)アウィーナ大阪・大阪府立生野聾学校

### 秋の講演会

平成17年10月21日(金) アウィーナ大阪  
(日本教育オーディオロジー研究会と共催)



### 冬の学習会

平成17年 1月14日(土) 兵庫県内

## 各地の研究会案内

### 第34回 補聴器勉強会

- 1 日程 : 2005年6月11日(土)・12日(日)  
11日(土)14:00~ 12日(日)9:30~
- 2 場所 : 奈良県社会福祉総合センター  
〒634-0061 奈良県橿原市大久保町 320-11  
TEL 07442-9-0111 FAX 07442-9-1010
- 3 プログラム :  
6月11日(土) 1. 「補聴器装用前後の評価 - 質問紙を中心に -」  
岡本牧人先生(北里大学医学部耳鼻咽喉科教授)  
6月12日(日) 2. 「超音波補聴器についてのシンポジウム」  
司会 細井裕司先生(奈良県立医科大学耳鼻咽喉科教授)  
渡辺好章先生(同志社大学工学部教授)  
今泉 敏先生(広島県立保健福祉大学  
コミュニケーション障害学科教授)  
中川誠司先生(産業技術総合研究所  
人間福祉医工学研究部門主任研究員)  
西村忠己先生(奈良県立医科大学耳鼻咽喉科)  
3. 「早期より聴覚を活用した成人聴覚障害者の今」  
大沼直紀先生(筑波技術短期大学長)  
都合により一部変更する場合があります。ご承知おきください。

## 近畿教育オーディオロジー

### 研究協議会事務局

〒639-1122  
奈良県大和郡山市丹後庄町456  
奈良県立ろう学校内

### 事務局長 中井 弘征

TEL : 0743-56-2921  
FAX : 0743-56-8833  
メール : h-nakai@indigo.plala.or.jp